

会 議 録

会議の名称	多摩六都科学館第3次基本計画策定委員会
開催日時	令和5年9月6日(水) 午後13時00分から午後15時30分まで
開催場所	対面とオンラインでのハイブリッドでの開催 対面：多摩六都科学館 201 会議室      オンライン：Zoom
出席者	(委員) 縣秀彦委員長(オンライン参加)、天野未知委員、太下義之委員、大道竜嗣委員、佐々木亨副委員長、田原三保子委員 (事務局) 保谷事務局長、豊田管理課長、小菊管理課主査(オンライン参加) (指定管理者) 高柳館長、福島統括マネージャー、伊藤 GM 補佐、高橋経営管理 GL、原主任研究員、石井アテンダント GL、斎藤天文 GL、湯浅研究交流 GSL (基本計画策定業務受託者) 有限会社プランニング・ラボ 村井良子代表
議 事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに     開会挨拶、委員ならびに参加者紹介</li> <li>2. 多摩六都科学館基本計画策定委員会の運営について     委嘱状の交付、委員会の公開・非公開、委員長・副委員長の選出</li> <li>3. 計画策定のための情報共有について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 策定の進め方・今後のスケジュール</li> <li>(2) 第2次基本計画の概要と策定時の留意点</li> <li>(3) これまでの事業評価の結果と今後に向けて</li> <li>(4) 令和4年度 中長期事業評価調査の結果報告</li> </ol> </li> <li>4. 質疑応答</li> <li>5. 次回委員会ならびにワークショップ開催について</li> <li>6. 閉会の挨拶</li> </ol>
会議資料	資料1：多摩六都科学館第2次基本計画 資料2：多摩六都科学館第2次基本計画(平成26年度～平成35年度)ローリングプラン2016 資料3：多摩六都科学館事業評価報告書(平成28年度版、令和元年度版、令和4年度版、9カ年の総括表、長期評価のコメント) 資料4：2022年度多摩六都科学館中長期事業評価調査 調査結果概要資料 資料5：多摩六都科学館第3次基本計画策定工程表 資料6：多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱 資料7：多摩六都科学館基本計画策定委員会名簿 資料8：附属機関等の会議録作成に関する要綱  参考1：多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表(歴年度対照表) 多摩六都科学館利用料金集計表(歴年度対照表) 参考2：令和3年度多摩六都科学館組合事務事業報告書 参考3：令和4年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者事業報告書 参考4：多摩六都科学館組合財政計画(平成31年度～令和5年度) 参考5：多摩六都広域連携プラン 参考6：多摩六都科学館の概要(令和5年度概要版)
会議内容	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
発言者名	発言内容 (別紙 多摩六都科学館第3次基本計画策定委員会第1回会議 議事録本文)

会議内容

1 はじめに

- (1) 開会挨拶
- (2) 委員ならびに参加者紹介

2 多摩六都科学館基本計画策定委員会の運営について

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 委員会の公開・非公開について
  - 組合事務局より以下の資料説明
    - 資料6：多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱
    - 資料7：多摩六都科学館基本計画策定委員会名簿
    - 資料8：附属機関等の会議録作成に関する要綱
- (3) 委員長、副委員長の選出
  - 委員長：縣秀彦委員 副委員長：佐々木亨委員を選出

3 計画策定のための情報共有について

- (1) 策定の進め方・今後のスケジュール
  - 組合事務局より資料5の説明
    - 資料5：多摩六都科学館第3次基本計画策定工程表
- (2) 第2次基本計画の概要と策定時の留意点
  - 第3次基本計画策定にあたり組合事務局より情報共有のため以下の資料を説明
    - 資料1：多摩六都科学館第2次基本計画
    - 資料2：ローリングプラン2016
    - 資料3-1：平成28年度事業評価報告書（第1期単年度ならびに中期の評価）
    - 資料3-2：令和元年度事業評価報告書（第2期単年度ならびに中期の評価）
    - 資料3-3：令和4年度事業評価報告書（第3期単年度ならびに中期・長期の評価）
    - 参考1：多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表（歴年度対照表）  
多摩六都科学館利用料金集計表（歴年度対照表）
    - 参考2：令和3年度多摩六都科学館組合事務事業報告書
    - 参考3：令和4年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者事業報告書
    - 参考4：多摩六都科学館組合財政計画（平成31年度・令和元年度～令和5年度）
    - 参考5：多摩六都広域連携プラン
    - 参考6：多摩六都科学館の概要（令和5年度概要版）
  - 計画策定業務受託者から補足説明
    - 資料1：多摩六都科学館第2次基本計画
      - 第2次基本計画の策定以前は、計画と評価が別立てで運用されていたが、第2次基本計画では、計画と評価を連動させ、目標管理ができるように設計した。また策定以前は、設置目的の中に文化の振興を掲げながらも、実際の運営では地域づくりの視点が抜け落ちていた。そこで基本計画の中に地域拠点事業の目標を掲げ、科学館の活性化を図りながら、地域貢献を目指すこととした。当初現場は苦労があったと思うが、昨年事業実施者に行なった調査では、第2次基本計画の使命や事業目標は現場スタッフの行動指針になっているという結果が出ている。
    - 参考2：令和3年度多摩六都科学館組合事務事業報告書
      - 市民モニター制度の平成27年度から導入。身近な存在である市民モニターに定性的に見てもらい、数値化しにくい地域づくりの取り組みなどを評価してもらっている。長年の取り組みの中で、市民モニターと現場のスタッフ間での忌憚のない意見交換を通して、迅速な現場改善につながっている。
    - 資料5：多摩六都科学館第3次基本計画策定工程表

第3次基本計画策定ではこれまでの事業評価の見直しも進めたい。そのために評価部会を設け、第三者の専門家の立場からのメタ評価を行ってもらおう。メンバーは佐々木委員、評価学専攻の源由理子氏（明治大学）、ODAで評価の実績がある市民モニターを予定。専門家の意見を伺いながら、成果がわかりやすく示せるような評価システムにしていきたい。

(3) これまでの事業評価の結果と今後に向けて

● 計画策定業務受託者から資料3-4と3-5の説明

資料3-4：多摩六都科学館 第2次基本計画に基づく事業評価 2022年度までの9カ年の総括表

資料3-5：多摩六都科学館 事業評価報告書 長期評価

2016年から第2期中期計画。すでにA+の評価が多い。入館者数も平成28(2016)年度が25万人でピーク。この時期の現場のスタッフは、地域拠点事業を一生懸命取り組んでくださり、顕著な成果が見られた。第1期の3年間で「多様な年齢層に対して」などの目標はある程度達成。そこで、第2期中期より高みを目指すべく「ローリングプラン2016」を策定。

・ ソーシャル・インクルージョン

基本方針の「誰もが」という表現の対象を明確にするために、経済格差や言語、国籍などの要因を考慮し、ソーシャル・インクルージョンを基本指針とした。例えば在留外国人などより広い層に目をむける取り組みに進化した。

第2期が始まると評価は落ち着く。引き続き努力はしているが、目標を高く設定したためだと思われる。

・ 圏域市民ウィーク

「圏域市民感謝デー」とは別に平成30(2018)年度から「圏域市民ウィーク」というイベントを実施。圏域5市の市民を対象に、各市それぞれ1週間で計5週にわたって、該当市の市民にさまざまなサービス（入館料半額、プラネタリウムの事前予約、最寄り駅から1日限定で無料のシャトルバスを運行するなど）を提供する。この事業を始めたことにより、中期第2期ではA+の評価が増加。2019年には交流拠点事業でA++となる。

・ 評価全体の傾向

第1期は外部の評価が高い。第2期は幾分自己評価が高くなった。第2期は3年間の頑張りで成果が出ているが、同時に現場の負担も出ていたと推測できる。第3期になった時にコロナ禍に突入する。交流に関しての評価は少し下がったが、中期的な視点はA+、長期でもほぼA+となり一定の成果が見られた。

・ 科学館事業の評価

平日の利用増を目指して、「思いやりプラネタリウム」や「0歳からのプラネタリウム」、「大人向けプラネタリウム」、「やさしい日本語」などを実施。ソーシャル・インクルージョンの観点からも一定の成果が得られるようになった。大人向けプラネタリウムでは年間スケジュールを告知することで、大人が参加しやすい状況を作った。「やさしい日本語」も単に多文化共生事業としてではなく、日々の業務の中での基本的な姿勢として定着しつつある。

収蔵庫の問題。多摩六都科学館は市民から信頼される施設となり、寄贈品資料が増える傾向にある。しかし、それらを受け入れるための設備や収蔵庫がない。令和2(2020)年に博物館相当施設に指定されたこともあり、今後さらに寄贈が増える可能性がある。収蔵庫の整備は急務と言える。また調査研究活動の強化も課題となっている。

施設の老朽化。改修するための費用の捻出については、第3次基本計画の中でも大きな課題である。また、web予約システムの開発など、オンラインシステムをバージョンアップする必要がある。

・ 地域拠点事業の評価

地域拠点の魅力発信では、地域の企業（シチズンやグローブライトなど）、圏域内の川で活動をしている市民団体、資料館や公立図書館など幅広い分野との連携事業。圏域に留まらず最先端の科学研究機関と協定も結ぶ。協定先はこの10年間で徐々に増えており、今年の9月で10カ所となる。

ボランティアも少しずつ新陳代謝は進んでいるが、まだまだ高齢者が多い状況。多摩六都科学館に在籍するボランティアはすばらしい人材ばかり。ボランティアコーディネーターは「宝物」と称している。ボランティアが自主的に活動できるようサポートしながら関わっていく姿勢は維持していくべき。

- ・マーケティング

平日利用の促進のため積極的な活動を行なうことで、徐々に成果が伺える。年間を通して利用できるような、工夫や努力も評価したい。季節的に利用者が減る時期に人気の企画をあてることで、年間として利用者の波が平らかになった。圏域に在住する外国人に向けては、まだ情報が届いていない。利用促進策については、未利用者向けの調査も行っているが、まだまだ足りない。

- ・体制整備

現場スタッフの努力に見合った待遇や環境の改善。モチベーションを高めるために必要な要件を再整備しながら進めていく必要がある。世代交代にも影響がでる。リーダー格のスタッフは勤続 20～30 年であり、その後につながる人材をどう育てていくかが課題。

- ・9カ年の総括

第2次基本計画で取り組んできた生涯学習拠点としての機能や、ソーシャル・インクルージョン、地域のハブという点に関しても、ある程度の成果は上がってきている。これからも高みを目指していく必要はあるが、現場の疲弊を目前にして、一体どこまで行えるかということを常に考えながら計画策定を行いたい。

#### (4) 令和4年度中長期事業評価調査の結果報告

- 計画策定業務受託者から資料4の説明

資料4：2022年度多摩六都科学館中長期事業評価調査 調査結果概要資料

時間がないので解説用動画を見ていただきたい。この資料に掲載以外のデータは10月に開催するワークショップ時に提供する予定。科学館の関係者（市民、利用者、団体利用者、事業パートナー、設置者、事業実施者）が今後期待している科学館像、地域拠点施設像についてなど。

## 4 質疑応答

- 委員長：

第3次基本計画において何を中心的に議論すべきか、本日の委員会である程度見通しを立てたい。先ほどの事業評価調査の結果報告などで問題点や課題が指摘されていた。数字だけでは見えてこない実態などを資料から把握しつつ、事業内容、ハード、人材（指定管理者も含む）の問題にも絡めていきたい。

- 計画策定業務受託者：

基本的に第2次基本計画の方針は継続してもよいと考えている。第2次を基本としながら、事業内容を精査しつつ、新規事業を検討したい。圏域市民の意見やニーズを反映させながら、現場のスタッフが意欲を持って業務に従事してもらうためにはどうすればよいかも併せて協議していきたい。

現況の社会環境の中でこれからの文化施設が目指すべき、チャレンジすべき方向性を、専門的な知見をお持ちの委員と協議していきたいと考えている。

- 委員長：

議論の目指すべきところや改善点など本日は雑駁なイメージで構わないので、思い浮かぶものを各委員に伺いたい。

- 委員：

課題としてあがった2点について伺いたい。

1つ目は職員の人材育成について。指定管理者は第2次基本計画から10年間乃村工藝社が受けているということだが、今後はどうか。ここでの人材育成とは、実際に展示や来館者対応をしている乃村工藝社の中での人材育成を指すか。

2つ目は建物の老朽化について。30年ということでは建物自体の老朽化とともに、展示更新も必要になってくるだろう。いま具体的にはどういった問題があるか。

●指定管理者：

指定管理者については今年度選考があり、次年度から6年間の交渉権をいただいた。ここで言う人材育成とは、主に多摩六都科学館の指定管理者内のことを指す。今後は乃村工藝社全体の中での人材育成に切り替えていきたいと考える。

●事務局：

老朽化の問題について。空調機の更新が科学館の一部でしか行われておらず(平成30・2018年)、大型空調(プラネタリウム、エントランスホールなど大規模な空間)は未更新のまま。展示物については、平成24(2012)年度に展示更新を行なった。利用者のうちリピーターからは、展示の変わり映えがないという意見を聞く。可能であれば第3次計画期間中に大規模な展示更新も手掛けていきたい。財源問題は切り離せないが、その時々状況を見ながら議論を進めたい。

●委員：

報告では今まできちんと計画づくりや評価を行ってきたことがわかった。その上で科学館を取り巻く状況、日本全体が超高齢化社会を迎え大きく変化していくという認識を持った方がよい。多摩六都広域連携プランでは、2035年は圏域の人口減、高齢者の人口増、65歳人口が21万8000人ほどで圏域の人口の3割とある。第3次基本計画の2024～2033年はこういう状況に向かう中で作らなくてはならない。中期的には高齢者向けのサービス、高齢者とどう向き合うかがとても大きな課題。一方で子ども時代に科学館を利用した層が社会の中堅世代になってくる。その世代にもう一度、家庭や親子の対話の場として再認識してもらえるようなプログラムも重要。伝える方法も家庭、学校などリアルの場からデジタルの領域までやりようはいろいろある。実施したプログラムや展示、解説などのデジタル・アーカイブ化も大きな課題だろう。

●委員：

報告からこれまでの事業や評価を知り、すばらしいプロセスを踏んでいると感じた。その上で人口減少・少子高齢化が加速する今後の10年とどう向き合うか。私は多摩全域を見ているが、多摩六都科学館が今後圏域の中でどの層をターゲットとして来館を促すか、文化施設としてどのような役割を果たしていくか、各委員と議論していきたい。

●委員：

これだけのデータを揃えて説明できるものにしていくという努力を評価したい。個人的には、これだけ精緻化し明確なインフォメーションを付与することは大切であるが、一方で曖昧な感性のような余白を全部削ぎ落としてしまうとを感じる。最近美術館などでは、作品の解釈をクールな状態にしている。解釈の多様性を肯定し、一つのストーリーやメッセージを伝えることを目的としていない。運営にとってはそこそが大事ではないか。科学館でも資料に対する解釈や理解の余白が成り立っているのか疑問に思った。

一つ伺いたい。資料3-4の「中期」という表現について、どういう意図があるか。中期の評価を付与するために新規の調査は行わないのか。例えば中期のA+は、前の3ヶ年を総括して感覚的にA+とつけているか。

●計画策定業務受託者：

3年間の活動実態を総合的に見て評価している。単年度の指標以外に中期での実績指標を設定しており、中期の区切りで科学館関係者に向けた調査を実施し、経年の変化を見ることができるよう評価設計している。その調査結果も踏まえて、自己評価・外部評価を段階評価で行っている。

●委員：

資料を読んで、自分なりに発見がたくさん出てきた。その中で「科学とは何か」という疑問が湧いた。勉強の中でだけでなく、日常生活の中での好きや、きらめきや、発見が

実は科学につながることで、物事の表側だけでなく裏側のしくみを知ることこそ科学館のテーマになり得るかと思った。一つ提案だが、先日の国立科学博物館のクラウドファンディングの件もあるが、この施設の老朽化に金銭的に対応するために、ファンディングを真剣に考える必要があるのではないか。5市の負担金だけではなく、サポーター的な立場から市民の善意の気持ちを集めるというしくみも研究したらどうか。

●委員長：

今後各委員の専門的な知見から、多様なベクトルのアイデア、意見、具体的な改善点等が出てくると期待している。

5 次回委員会ならびにワークショップ開催について

6 閉会

7 科学館内見学